



校庭の桜の前で記念写真を撮る石沢小の新入生親子

本荘由利地域の小中学校で18日、入学式が開かれ、新入生たちは新たな学校生活に期待を膨らませた。新型コロナウイルスの感染者が由利本荘保健所管内で相次い

だことで、当初の予定から10日ほど遅れての開催。20日は登校するが、政府の緊急事態宣言の対象拡大に伴う県の措置を受けて21日から5月6日まで休校となる。

# 再休校目前、やっと入学

## 最後の新入生、元気に

由利本荘・石沢小

学校統合により本年度で閉校する由利本荘市の石沢小学校（松本健校長、47人）では、最後の新入生となった女子4人が式に臨み、名前を呼ばれて元気に返事をした。

松本校長は「これほどこの日を待ち望んだことでしよう。桜が満開の時期に入学式を行うのは初めて。石沢小そのものが最後の入学生をお祝いしてくれているようにと式辞。優しい心を育て、命を大事にするよう呼び掛けた。

21日から休校になることにも触れ、「残念ながら、月曜に学校に来るとまたお休みに

なる。連休が明けたら元気に学校に来て、楽しいことをたくさん見つけてほしい」と話した。

式の後には、校舎の敷地にある桜の木の前で記念写真を撮る家族の姿が見られた。

新入生の伊藤杏莉さんは「緊張したけど大きな声で返事ができた。算数で100点を取れるように頑張りたい」と笑顔を見せた。

母親の彩さん(32)は「入学式が無事にできて本当によかった。すぐに休みになってしまうので娘がかわいそうだが、友達とまた笑顔で遊べる日が来ると信じて辛抱するしかない」と話した。

児童の数が減少していた同校は、来年4月に学区が隣接する小友小と統合する。校舎は小友小を使用することが決まっている。



石沢小で最後の新入生として式に臨む4人